

青森市議会だより

第3回 定例会の報告

令和5年8月29日～9月28日

青森市議会議員：自民クラブ

柿崎 孝治



事務所：〒038-0059 青森市油川大浜57-2 電話番号：017-752-9264 (FAX兼用) 携帯番号：090-4887-1907

令和5年度9月補正予算案を可決しました

今期定例会では、長引くコロナ禍やエネルギー・食料品等の物価高騰による市民生活の負担増を踏まえ、全ての市民の生活を支援するため、市民一人当たり3千円の商品券の配布に要する経費、学校職員の健康管理と円滑な学校運営のため、全ての小・中学校の職員室等へのエアコン設置工事等に要する経費、一定回数以上の新型コロナウイルスワクチン接種を実施した医療機関に対する補助事業の実施に要する経費等を計上し、一般会計補正予算案が提案されて、全会一致で可決し、補正後の令和5年度青森市一般会計予算は次の通りとなりました。

令和5年度青森市一般会計補正予算額……23億6千986万4千円
補正後の予算額……1千285億5千358万円

令和5年度「サマーキャンプサイト in あおもり (無料臨時キャンプ場)」について

今年の青森ねぶた祭はハネトの自由参加が復活するなど、コロナ禍を経て4年ぶりに制約のない青森ねぶた祭となりました。ねぶた祭の期間に合わせて一般開放する青森市の無料キャンプ場「サマーキャンプサイト in あおもり」が、コロナ禍を経て4年ぶりにオープンし、無料キャンプ場の復活に全国からねぶたファンがバイクや自転車で集結しました。

Q

青森ねぶた祭期間に設置されている「サマーキャンプサイト in あおもり」の概要をお示してください。

A

サマーキャンプ場は、青森ねぶた祭に訪れる観光客に対して、例年8月1日から8日までの8日間、青森港のフェリーふ頭に隣接する新田浄化センターの敷地のうち、約11,000平方メートルを活用して、仮設のトイレや流し台、ゴミ収集場、駐車場・駐輪場を設置し無料で開放。宿泊施設に限りがある中、重要な受け皿にもなっていることから、引き続き、利用者等と連携を図りながら、サマーキャンプ場を運営していきます。

Q

来年度以降、大雨などの災害時における、サマーキャンプ場利用者への対策など検討されたほうがいいと考えます。当市の対応をお示ください。

A

サマーキャンプ場における災害時の対策として、一部の利用者とは緊急連絡体制を整えているとともに、キャンプ場の開設時には、市から注意事項等を説明。今後は、災害の状況に応じたキャンプ場の閉鎖や、市の指定避難所への案内など、利用者に対し事前に周知することで、当キャンプ場における災害時の対策を強化します。



柿崎からの要望

新井田川(新城川)は幸いにもここ数年氾濫など災害が起きていないようですが、今後起きうる災害に対策を打つことが望まれます。大雨による洪水で川がゴミや流木などでせき止められると想像・仮定するととても恐ろしくなります。



防災について

広報あおもり2023年8月15日号の2～3ページにわたり、『～大切な命を守るために～「確認しよう！日頃からの災害への備え」災害はいつ・どこで起きるか分かりません。いざというときに、自分と大切な人の命を守るため、日頃からの備えを確認しましょう。』などと特集が組まれていました。近年では梅雨からお盆にかけて、いろいろな地域で突然のゲリラ豪雨、線状降水帯などが発生して猛烈な雨が降り続き、さらに追い打ちをかけるように再び警報級、そして記録的な大雨が降るといふ、今までに経験したことがない気象現象が起きています。

Q 大雨による災害からの避難行動について、青森市民にどのように周知しているのかをお示ください。

A 市では、青森地方気象台から大雨警報及び洪水警報が発表された場合や、青森県及び青森地方気象台から土砂災害警戒情報が発表された場合には、河川、道路及び下水道等の維持管理に関わる担当職員によるパトロールを強化するなど、全庁的に警戒体制をとることとしています。また、災害が予見される場合には、青森県、青森地方気象台と連携して情報共有を行い、住民に対し、国が定めた避難情報の発令基準に応じて、高齢者等避難、避難指示及び緊急安全確保を適時適切に発令することとしています。

陸奥湾の海水温の上昇による、本市の養殖ホタテガイへの影響について

Q 陸奥湾の今年の海水温の状況については、青森県の研究機関である青森県産業技術センター水産総合研究所の観測データによると、本市に最も近い観測点である「青森ブイ」の水深15メートル層で、6月以降の海水温が平年値から1.9度～3.7度高くなっています。なお、直近の8月21日～25日までの平均水温は24.6度を記録し、平年値より2.2度高い状況となっています。ホタテガイの成長は、海水温の影響を受けやすく、稚貝では、海水温が23度を超えると成長が鈍り、25度で成長が止まり、26度を超えるとエネルギー不足からへい死の危険性が高まるといわれています。また、新貝及び成貝では、海水温が20度で成長が止まり、23度を超えるとエネルギーの消耗が激しくなり、この状況が長く続くと、最後はエネルギー不足でへい死の危険性が高まるといわれています。

水産総合研究所、青森県及び本市では、陸奥湾における海水温が高い状態が長く続いていることから、ホタテガイは既に疲弊している状態であり、その疲弊した状態で施設への上げ下げを行うと、へい死率や異常貝の発生率が高まる傾向があるため、施設を水温の低い下層に沈めたまま動かさないようにすること。などについて、注意喚起をしているのかをお示ください。

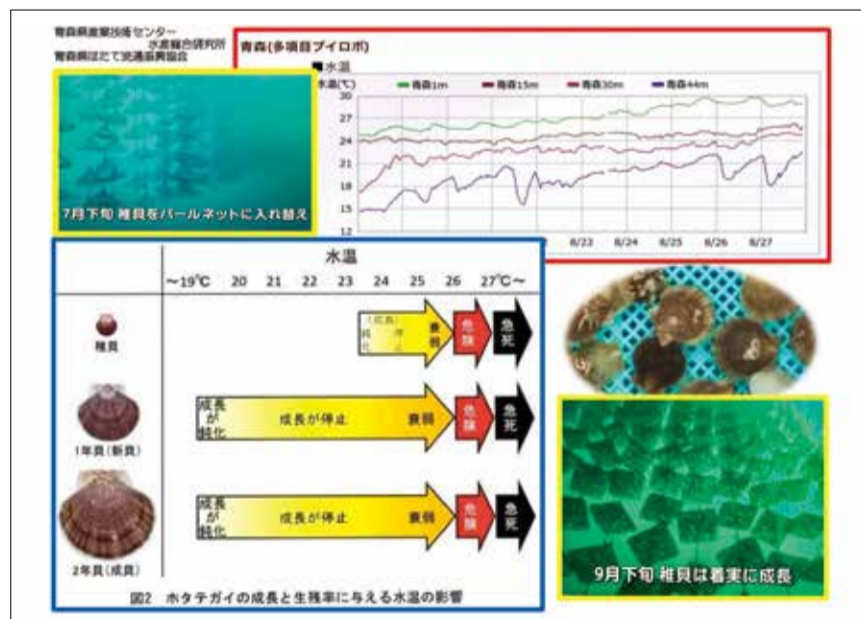
A 今年におけるホタテガイの保有数や成育状況については、10月に行われる「秋季陸奥湾養殖ホタテガイ実態調査」において確認されることとなりますが、それまでの間、漁業協同組合等の関係団体と情報共有しながら、海水温等の海況について注視してまいります。

Q 原発の海洋放出及び中国による全面禁輸をどのように受け止めているのかをお示ください。

A 市としては関係事業者と市長が直接協議する場を設けホタテガイ等水産物の輸出や国内消費の現状、欧米等新たな販路の確保などについて、今後の取組を協議したところです。

柿崎からの要望

西市長が漁業者のところへ出向き、直接説明を受けるなど話を聞いてほしいと思います。



※青森県産業技術センター水産総合研究所ホームページ・青森県はたて流通振興協会ホームページより引用

市職員が地域活動に参加しやすい休暇制度などについて

Q 市職員が地域活動に参加しやすい休暇制度などについて検討すべきと思うが、市の考えをお示ください。

A 職員の地域活動への参加については、全国的に関心が集まっており、先般、地方公務員が地域活動に参加するための休暇など、自治体が独自に特別休暇を創設するに当たっての留意点を国が検討しているという報道があり、本市としても、その動向を注視しているところです。市としては、地域活動や町会活動等に積極的に参加することは、地域活動の担い手の増加や地域コミュニティの活性化につながることで、また、活動を通じて、市民活動等の知識、経験を得る機会であり、視野が広い職員の育成にも有意義であると考えていることから、引き続き、職員に対して、積極的な呼びかけに努めてまいります。